

西部図書館の廃止条例が可決～反対は日本共産党だけ

9月9日(木)の市議会文教委員会で「武蔵野市立図書館設置条例の一部を改正する条例」が日本共産党以外の賛成多数で可決されました。この条例は、武蔵境駅南口に図書館がメインの複合施設「武蔵野プレイス」ができるからということで、西部図書館を廃止するものです。西部図書館の廃止は土屋市長時代に『第四期長期計画』に盛り込まれたもので、それが今回条例改定という形で議会に提案されました。

西部図書館は境5丁目の都営住宅に併設されており、子ども達や高齢者が多く利用している貴重な施設です。地域の住民に根ざした図書館であり、武蔵野プレイスができても西部図書館は残してほしいというのが、地域住民の強い願いです。にも関わらず、地域住民の意見を考慮せず進めることは許されません。武蔵野プレイスの分館や分室にするなどして、西部図書館に図書館機能を存続させることは可能です。

文教委員会では、西部図書館廃止後に歴史資料館が建設される提案が8月に市から突如示されたことについて、党派を超えて疑問の声が上がりました。しかし、西部図書館廃止に反対の質問をしたのは日本共産党だけでした。

文教委員会で日本共産党の橋本しげき議員は、市長に議案の取り下げを求めましたが、取り下げられませんでした。そのため、日本共産党は、今議会で西部図書館廃止の結論を出すべきではないとの立場から、継続審議を主張しましたが、日本共産党以外の議員は採決を主張し、結局日本共産党以外の賛成で可決されました。

可決後、日本共産党以外の議員から、「西部図書館移転後の施設の利用については、周辺住民と話し合いの場を設け、文教委員会での議論を踏まえ住民への還元施設としての目的に沿うよう慎重に進められたい。今後、施設利用については、議会との議論を通じて理解を得られるよう最大限の努力をされたい。」という付帯決議が提案されました。橋本市議は、条例は可決されてしまったが西部図書館に図書館機能を残していく立場から、住民の声を良く聞くべきだという点で付帯決議の中身は日本共産党の立場と矛盾するものではない、と述べ、付帯決議には賛成しました。

16日(木)には市議会本会議が行われ、日本共産党以外の議員が全員賛成し、条例は可決・成立しました。

西部図書館廃止の条例は可決されましたが、「西部図書館」という形ではなくても図書館機能を残していくことは可能です。文教委員会で市長は、「西部図書館跡地利用については、周辺住民のご意見も聞いてまいります」と発言しています。発言通り住民の声を良く聞いてもらい、その声を市の施策に反映させるために、さらなる運動を広げていきましょう。



【西部図書館】